

【参考資料1】

下記の表は、本文中1)申請額の約3分の1に減額された問題についての内容を把握しやすくするために作成した、例年および今年度それぞれの減額率に関するイメージである。各名の減額率に関しては、申請額に対する実際の内定額の割合、すなわち各名の採択年数分の内定額合計を同申請額合計で除算した(各名の減額率=内定額合計÷申請額合計)。ただし、個人の特定を防ぐため、各名の実際の減額率は示さずに、以下に任意で設定した減額率に対する該当者数を表で示し、例年および今年度のDC採択者における減額率の分布を比較検討した。加えて、例年および今年度それぞれの平均減額率を下記の方法で求め、比較検討した。

なお、表1は、京都大学における情報提供者(いずれも海外調査を必須とする)による2016~2020年度までの採択事例18名分より作成した。また表2は、「2021年度特別研究員DC奨励費減額に対する説明を求める京都大学学生有志の会(13名)」のうち11名分より作成した。

表1: 例年(2016-2020年度)の減額率に対する該当者数(採択事例18名分)

減額率	該当者数
0-9%	1名
10-19%	2名
20-29%	6名
30-39%	9名
40-49%	
50-59%	
60-69%	
70-79%	

平均減額率 **27.7%** (最大減額率は**38%**)

表2: 今年度(2021年度)の減額率に対する該当者数(京都大学学生有志の会11名分)

減額率	該当者数
0-9%	
10-19%	
20-29%	
30-39%	
40-49%	
50-59%	1名
60-69%	2名
70-79%	8名

平均減額率 **68.0%** (最大減額率は**71%**)

* 平均減額率は例年/今年度共に各名の減額率合計÷人数で算出

* 斜線は、京都大学学生有志の会が調査した採択事例分においては該当者0名であることを示している。

表1、表2からわかる通り、例年の場合、平均減額率は3割弱であり、最大でも減額率は4割程度に留まっている。対して今年度の場合、平均減額率が6割強と大きく、さらに減額率のほとんどが7割減という極めて大きな減額率に集中している。このことから、例年の減額率に比べ、今年度の採択者(京都大学学生有志の会11名分)における減額率は歴然として大きいことがわかる。